



(6) 重点的に緑化の推進を図る地区（緑化重点地区）

都市緑化施策を総合的に推進していくには、本市の全域にわたって、各施策を展開していくこととなりますが、効果的・効率的な緑づくりにより快適な都市環境の創造を図るためには、重点的に実施することが必要となります。

緑化の推進を重点的に図るべき地区（以下「緑化重点地区」という）は、計画の実現に向けて緑の保全・整備・創造等の施策を推進するモデル地区としての役割を担うものです。この趣旨から次のような要件を有する場所が想定されます。

- ① 駅前、官庁など都市のシンボルとなるような地区
- ② 緑による質の高い環境整備に対する住民の意識が高く、特に緑の少ない住宅地、緑化の推進に関して住民意識が高い地区
- ③ 具体的な面的開発事業が計画されている地区で、緑による環境整備を重点的に行う必要のある地区
- ④ 緑地の配置計画上、緑地の不足を補うために重点的な緑化を推進する必要がある地区
- ⑤ 都市の風致の維持が特に重要な地区

ア 緑化重点地区の設定

本市の顔となるようなアピール性を持つ場所、整備事業などが計画又は実施中であり、「まちづくりにあわせた緑化の推進が図られるべき場所」という観点から、以下の3地区を緑化重点地区として設定します。

(200ha)

(7) 水無川北側の市役所周辺

駅前、官公庁など都市のシンボルとなるような地区という視点から位置付けます。(55ha)

(4) 秦野駅南部地区周辺

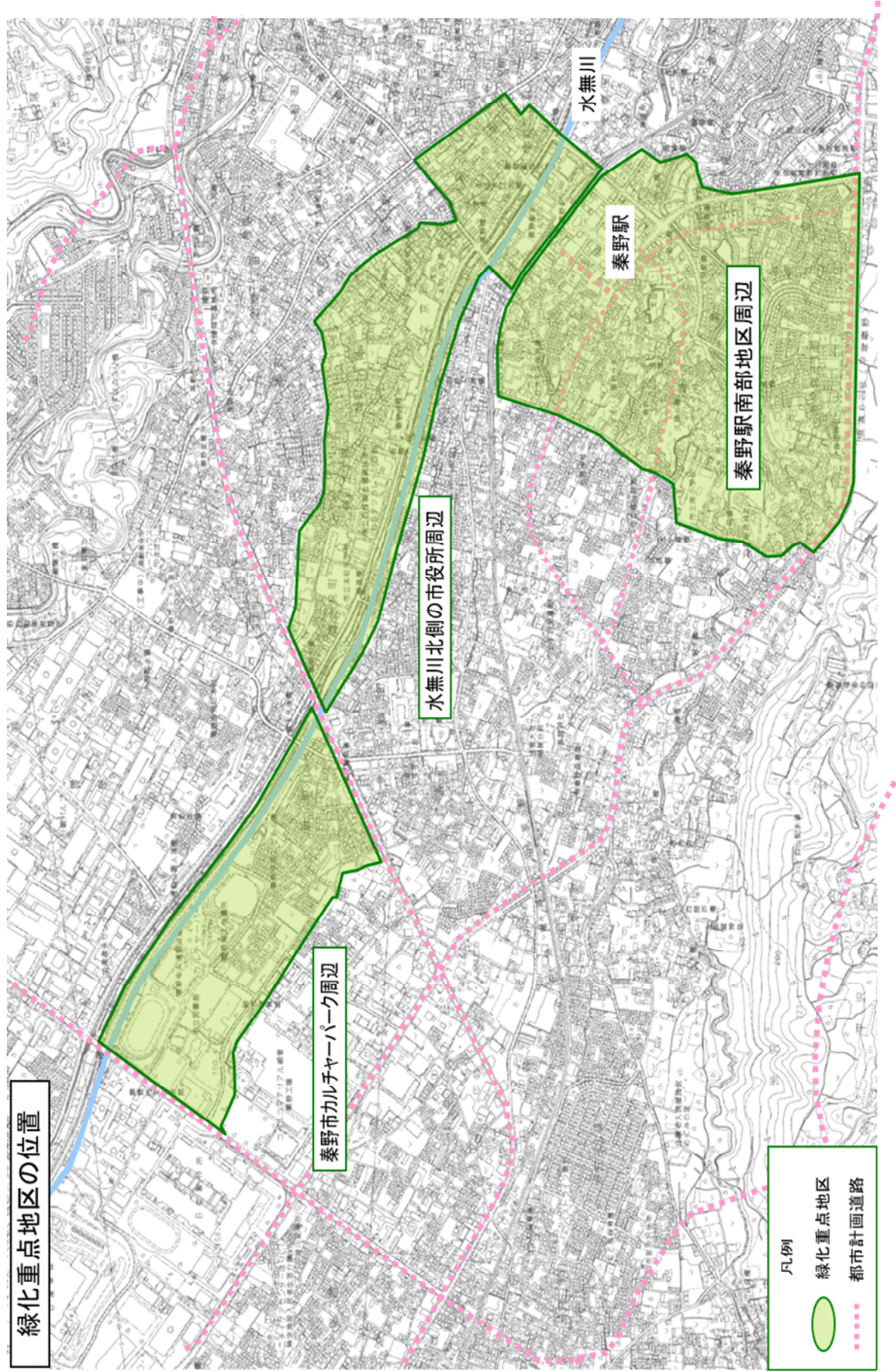
具体的な面的整備が計画されている地区で、緑による環境整備を重点的に行う必要のある地区という視点から位置付けます。(100ha)

(ウ) 秦野市カルチャーパーク周辺

風致の維持が特に重要な地区で、緑地の配置計画上、重点的な緑化を推進・保全をする必要のある地区という視点から位置付けます。

(45ha)







イ 水無川北側の市役所周辺（55ha）

（ア） 現況

秦野駅北側の商店街と市役所・小学校・中学校などの公共・公益施設が集中しており、本市の核となる地区です。

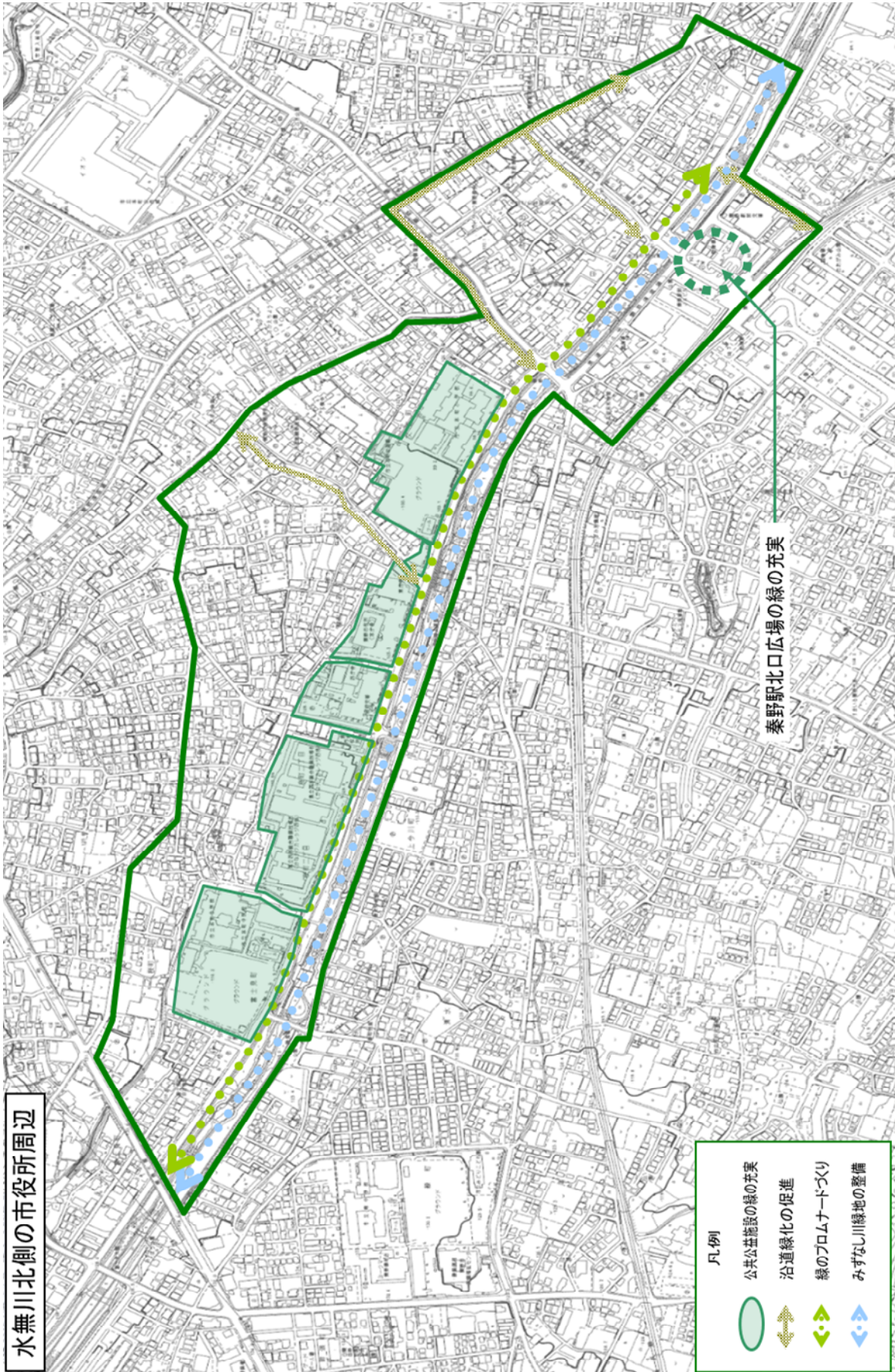
（イ） 課題

- ・公共施設や公益施設が多くありますが、限られた空間の中で緑地を効果的に配置する必要があります。
- ・本市の核として魅力ある都市空間の創造のため、街並みの景観と調和した緑の充実が必要です。
- ・商店街は、緑は比較的多くありません。また、商業系地域でのマンション建設が増えています。

（ウ） 整備方針

- ・公共施設や公益施設が接しているところが多くあるので、全体の敷地を一体として考え、緑地が効果的な配置となるよう、互いに整備と管理について協力することにより、連続したオープンスペースの創出に努めます。
- ・公共施設や公益施設の接道部の緑を充実し、歩道の緑と一体化し、ボリュームのある緑のプロムナードづくりを進めます。
- ・「水とみどりあふれる秦野」の玄関口としてふさわしい景観を形成するため、秦野駅北口広場の緑の充実を図ります。
- ・緑の少ない商業系地域では、壁面緑化やプランターを用いて、連続性や一体感のある沿道の緑化を促進します。
- ・商業地のまちづくりでは、買い物に訪れた人の憩いの場としての街角広場など、ゆとりのある空間確保を推進します。
- ・道路整備にあたっては、できる限り緑化空間を確保し、街路樹等による緑化に努めます。







ウ 秦野駅南部地区周辺（100ha）

（ア） 現況

秦野駅南側の秦野駅南部（今泉地区含む。）及び今泉台特定土地区画整理事業区域を含む地区です。また、秦野盆地の扇状地の南端部分に位置し、全国名水百選「秦野盆地湧水群」の代表的な「弘法の清水」や「荒井湧水」などの湧水地があります。

湧水を活用した「今泉名水桜公園（今泉湧水池）」や「いまいずみほたる公園（向原湧水）」があります。

（イ） 課題

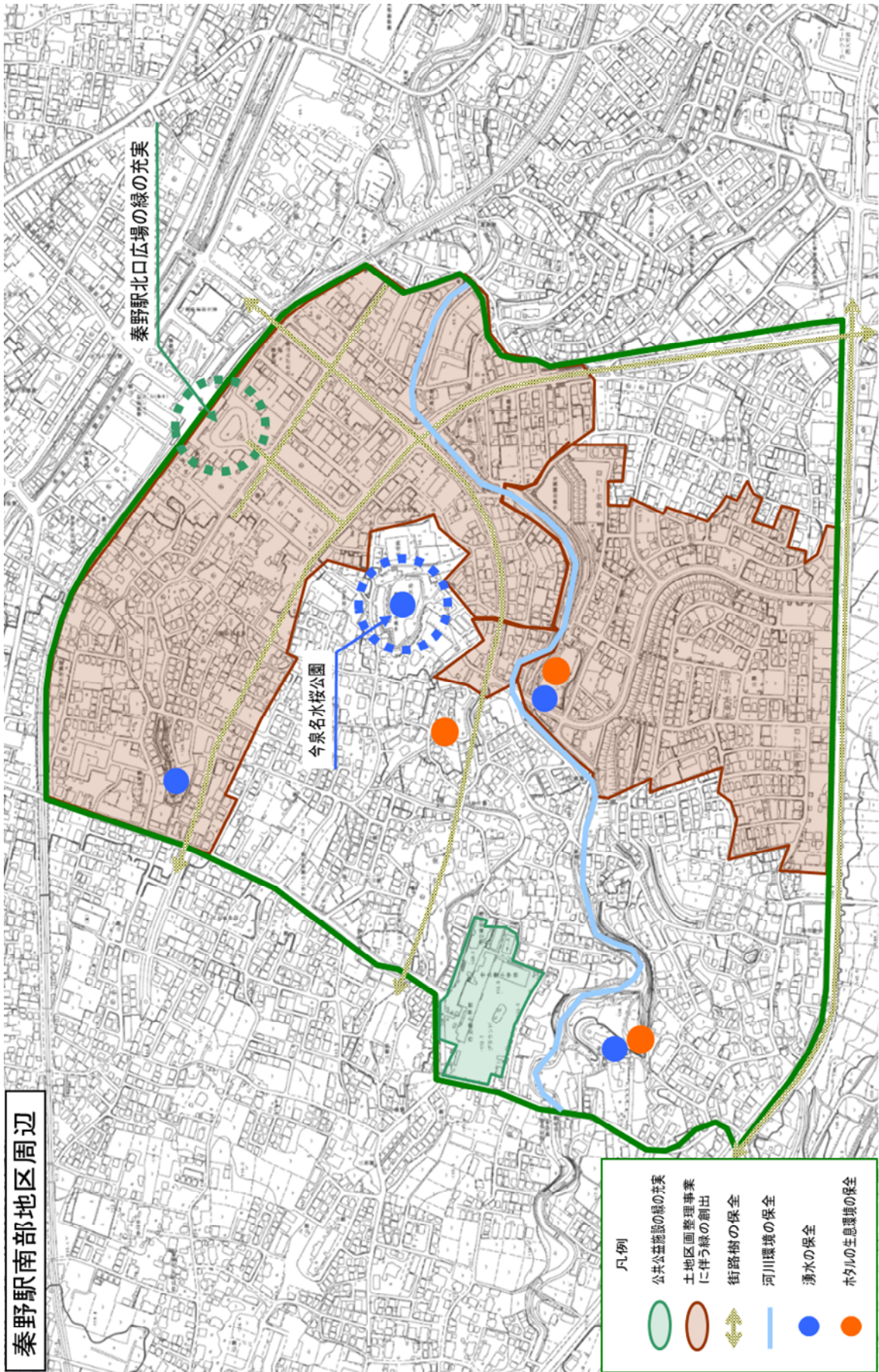
- ・湧水地の大部分が未整備です。
- ・良好な住環境を形成するために豊かなみどりを創る必要があります。

（ウ） 整備方針

- ・湧水を生かしたまちづくりを推進し、住民の憩いの場とします。
- ・ホテルなどの生息する湧水地を保全し、ビオトープネットワークの創造をしていきます。
- ・住宅地は、景観の向上や防災の観点から、生垣の設置や花のまちなみ推進事業による連続性や一体感のある緑化を促進します。



秦野駅南部地区周辺





エ 秦野市カルチャーパーク周辺（45ha）

（ア） 現況

市域の文化活動、スポーツ活動の振興を目的として運動公園・図書館・総合体育館・文化会館があり、緑の中の文化・スポーツゾーンの象徴として整備されています。また、工業系地域の平沢テクノパークが含まれます。

秦野市カルチャーパークと並行して流れる水無川の河川敷は、高水敷の芝生化、渡渉石の設置などみずなし川緑地として整備され、散策路や市民の日の会場として活用されています。

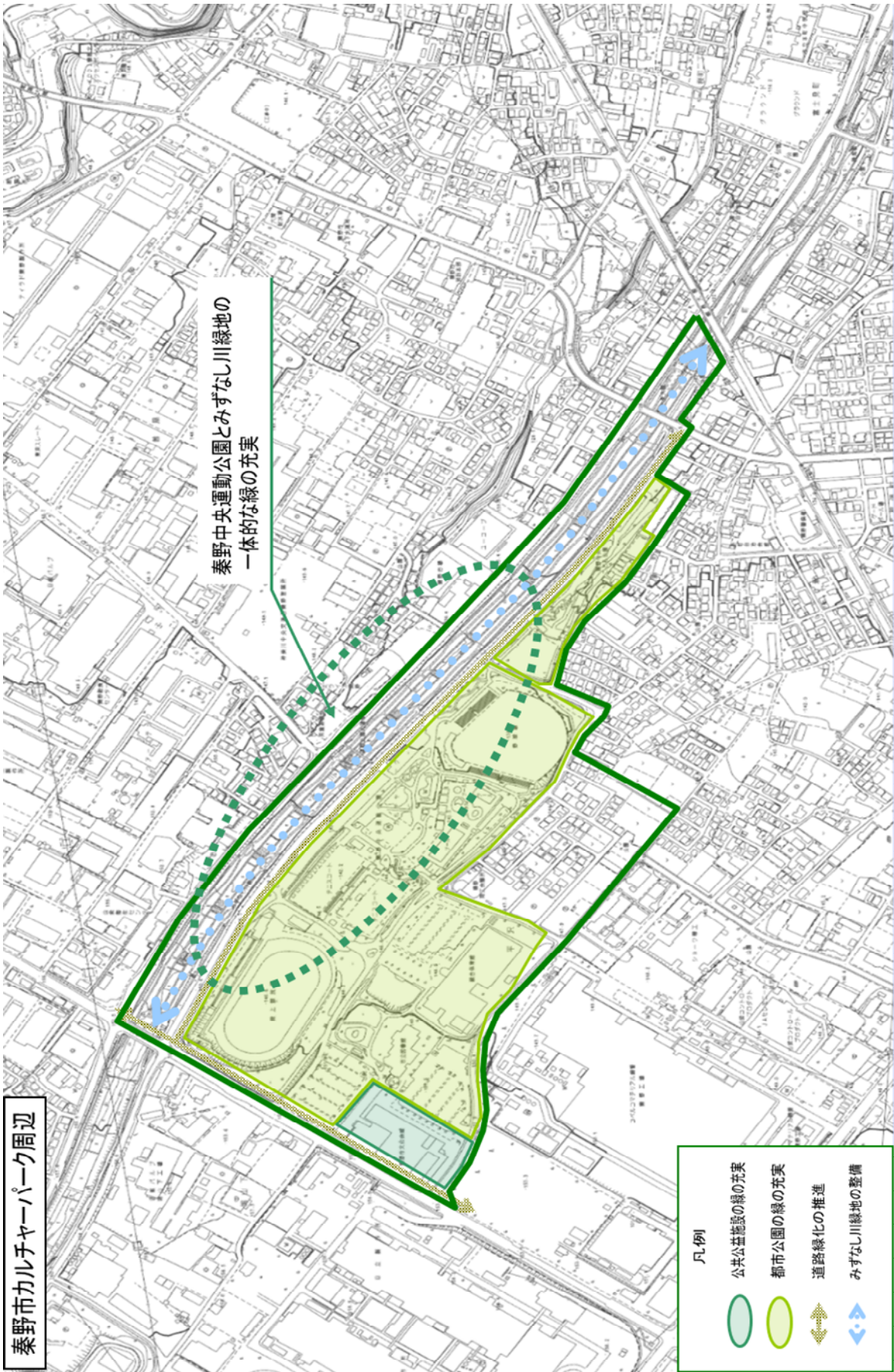
（イ） 課題

- ・生物の生息に配慮した緑化を進め、市街地におけるビオトープの拠点として、緑の充実を図る必要があります。
- ・より豊かにみどりを感じることができ、生物の生息空間としても機能するよう、秦野市カルチャーパークの緑と一体的な緑化を推進する必要があります。

（ウ） 整備方針

- ・秦野市カルチャーパークをはじめとした公共施設の緑を充実し、特に生物の生息に配慮した緑化を進め、市街地におけるビオトープの拠点としていきます。
- ・新たなまちづくりでは、秦野市カルチャーパークの緑と一体的な緑を推進し、連続するみどり豊かな空間を創出していきます。
- ・工場地域の事業所では、接道部及び敷地境界の緑化の充実を図り、連続性のある緑の創出を促進します。
- ・住宅地は、景観の向上や防災の観点から、生垣の設置や花のまちなみ推進事業による連続性や一体感のある緑化を促進します。







5 地区別の方針

地区別の計画は、身近な地区レベルでの問題や課題に対応するため、土地利用の状況・資源・特色のまとまりとして市域を次の8つの地区に区分して、その地区のみどりの現状や課題を分析し、地区ごとに個性と魅力あるみどりあふれるふるさと秦野の将来方向を示すものです。

地区区分





(1) 本町地区

ア 地区の概要とみどりの現状

本町地区は商店街や大型小売店舗が立地し、市役所を始めとした各種公共公益施設も充実した本市の中心市街地となっています。

地区内には水無川、金目川、葛葉川が流れ、ホタルや水鳥の生息場所となっています。東側には弘法山などの豊かな自然があります。地区東部及び南部等には農地が広がっています。

しかし、身近な公園などのオープンスペースが不足しています。また、西側の工業地帯では住宅地と工業地が混在しており、環境への配慮が求められています。

イ 課題

- 水無川、葛葉川、弘法山などの自然環境資源の適切な保全・活用
- 身近な公園などのオープンスペースの確保
- 農地の保全

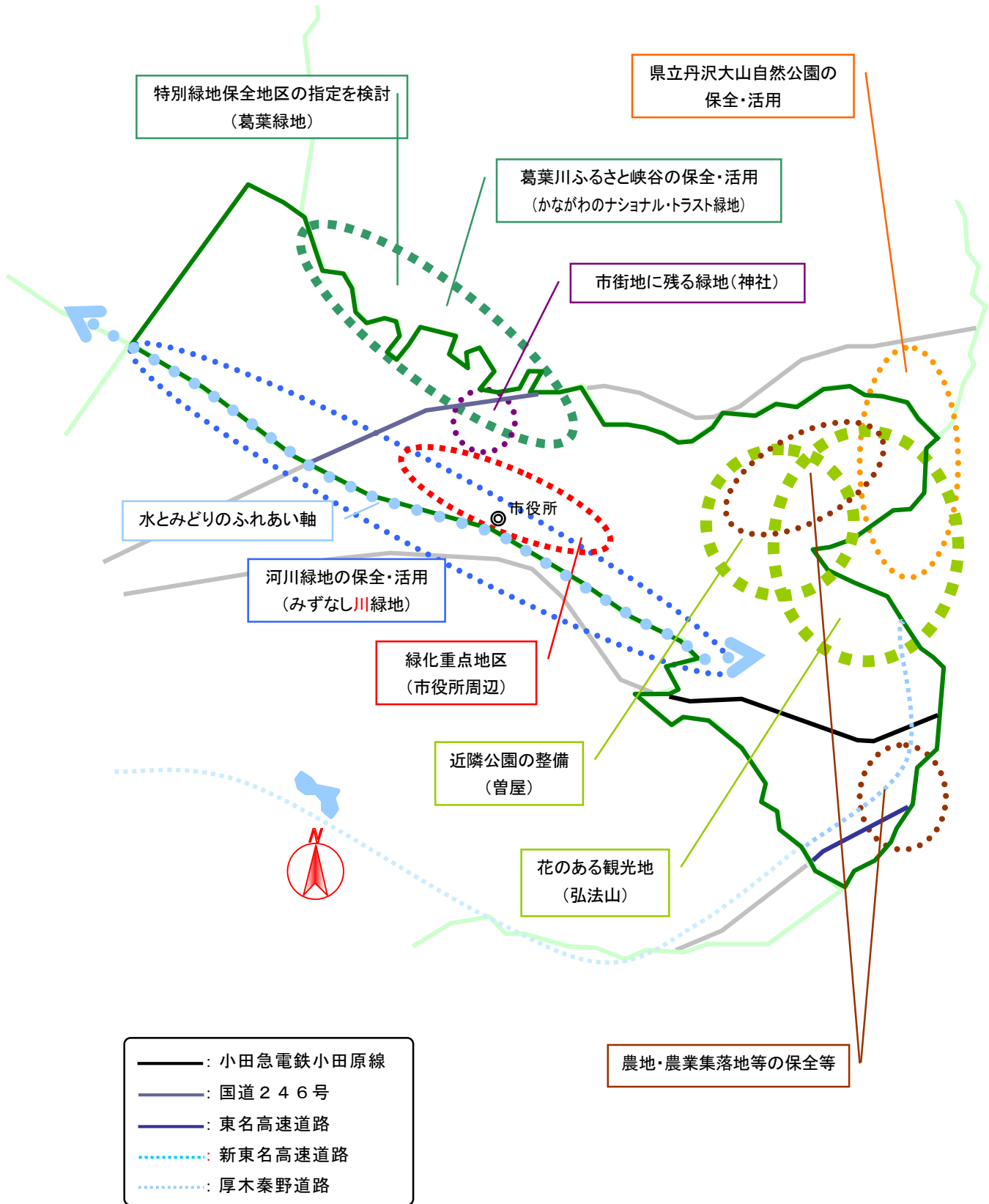
ウ 方針

- 県立丹沢大山自然公園の保全・活用
 - ・うるおいづくりの空間として保全・活用を図ります。
- 「みどりネットワーク」の保全・維持
 - ・水無川とその川辺に整備されている河川緑地の維持・保全を図ります。
 - ・みずなし川緑地の保全・活用を推進します。(水とみどりのふれあい軸)
- 葛葉川ふるさと峡谷の保全・活用
 - ・市街地に近接した身近な自然体験ゾーンとして活用を図ります。
 - ・特別緑地保全地区指定の検討をします。
- 弘法山の保全・活用
 - ・良好な生物生息空間、市街地からの眺望対象として保全を図ります。
 - ・弘法山周辺農地を活用した花のある観光地づくりを推進します。
- 市街地に残る良好な緑地の保全
 - ・曾屋神社・曾屋配水場跡地などの市街地に残る良好な緑地の保全を図ります。
- 身近な公園の整備
 - ・面的な整備を行う場合には、身近な公園の整備を図ります。
- 農地の保全等
 - ・地区東部及び南部等の集団的な農地等は生産環境の向上及び保全に努め、市街化区域内の農地は生産緑地制度の活用等により農地の保全に努めます。





本町地区方針配置図





(2) 南地区

ア 地区の概要とみどりの現状

南地区は小田急線秦野駅を中心に市街地を形成し、秦野市カルチャーパークには、秦野中央運動公園や文化会館、図書館、総合体育館など本市の文化・スポーツ施設が集積しています。秦野駅南部を始めとして、土地区画整理事業により市街地が整備されています。

弘法の清水や荒井湧水などの湧水が点在し、その南側には震生湖や渋沢丘陵の豊かな自然が広がっています。地区内を流れる室川沿いには良好な樹林地があるほか、ゲンジボタルの生息がみられます。市街地内には多くの生産緑地があります。

イ 課題

- 農地や渋沢丘陵の斜面緑地の保全
- 水無川、震生湖、湧水群などの水環境の適切な保全・活用
- 沿道の緑化などによる市街地内の緑の創造

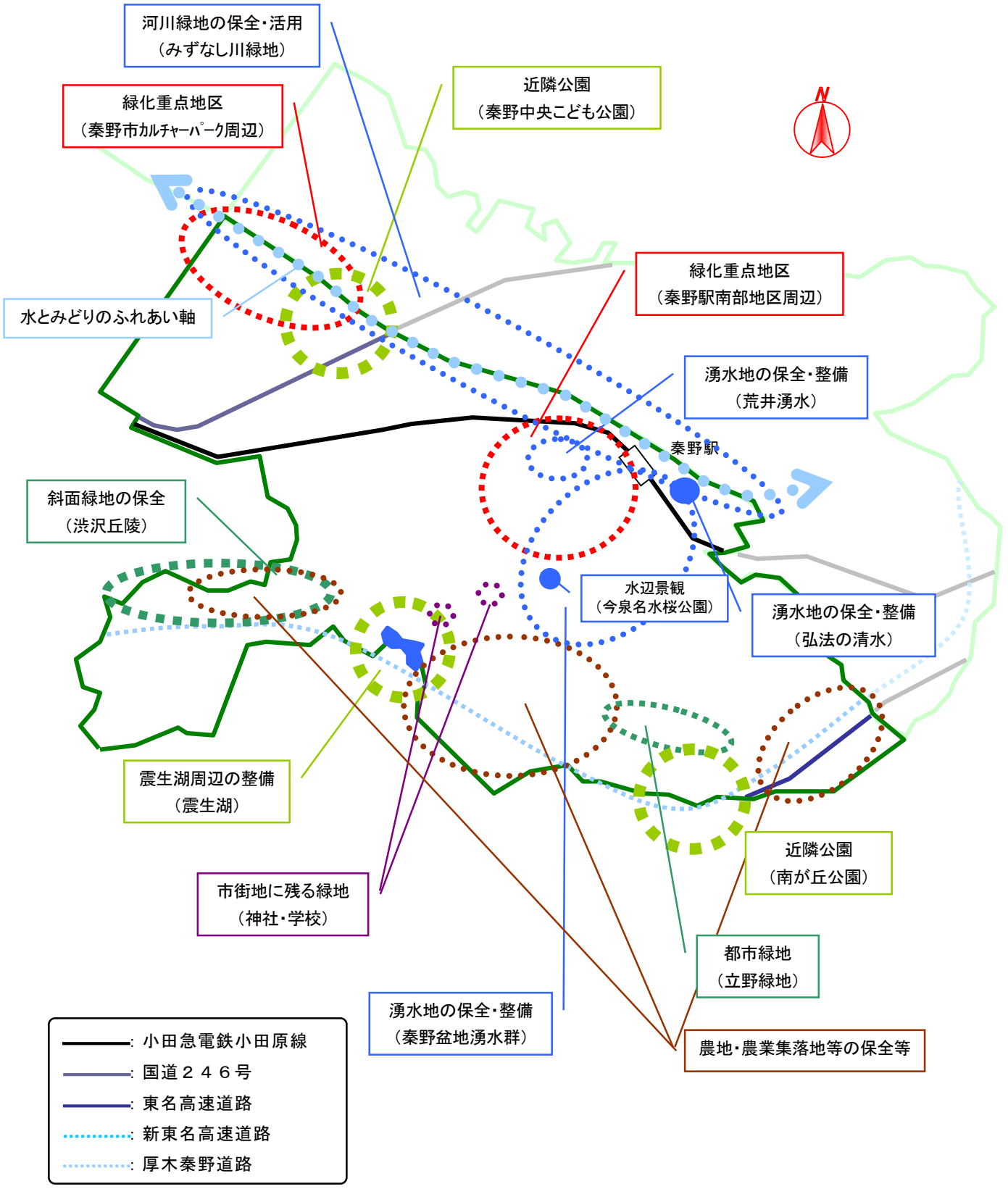
ウ 方針

- 渋沢丘陵の保全
 - ・景観上重要となる斜面緑地の保全・活用を図ります。
 - ・ボランティア団体等による里山林の保全活動に対して支援します。
- 「みどりネットワーク」の保全・維持
 - ・水無川とその川辺に整備されている河川緑地の維持・保全を図ります。
(水とみどりのふれあい軸)
- 湧水・谷戸田の保全・活用
 - ・弘法の清水周辺の再整備を進めます。
 - ・多様な生物の生息環境として湧水地や谷戸田を保全する「生き物の里」に指定するとともに、自然とふれあうことのできる場として活用を図ります。
 - ・多様な生物の生息環境として湧水地や谷戸田を保全する「生き物の里」に指定するとともに、自然とふれあうことのできる場として活用を図ります。
- 震生湖周辺整備の推進
 - ・景観、文化財、観光要素として貴重な資源である震生湖の自然環境を保全・活用していくため、震生湖周辺整備を推進します。
- 市街地に残る良好な緑地の保全
 - ・室川沿いの溪谷の緑や白笹神社周辺の緑、南小学校のソメイヨシノなど、市街地に残る良好な緑地の保全を図ります。
- 農地の保全等
 - ・営農環境を維持するため、農地の保全に努めます。





南地区方針配置図





(3) 東地区

ア 地区の概要とみどりの現状

東地区は丹沢から続く樹林地や農地が広がり、市街地は比較的地形の緩やかな地区の南側に広がっています。

地区北部及び東部は丹沢大山国定公園及び県立丹沢大山自然公園の指定により自然環境が保護され、市街地周辺には豊かな田園風景が広がっています。その中に東田原中丸遺跡や源実朝公御首塚などの歴史資源が数多く存在するほか、春嶽湧水や護摩屋敷の水など、湧水も豊かです。首都圏自然歩道やハイキングコースが設定され、また自然観察の森があり、丹沢の自然とのふれあいを楽しむことができます。しかし、丹沢の植林地の荒廃や野生動物による農作物への被害がみられます。地区南部の住宅地の中に葛葉峡谷のまとまった緑が残されています。

イ 課題

- 丹沢の自然の適切な保全・活用
- 歴史的・文化的資源と一体となったみどりの保全
- 葛葉川ふるさと峡谷の保全・活用
- 農地の保全・有効活用

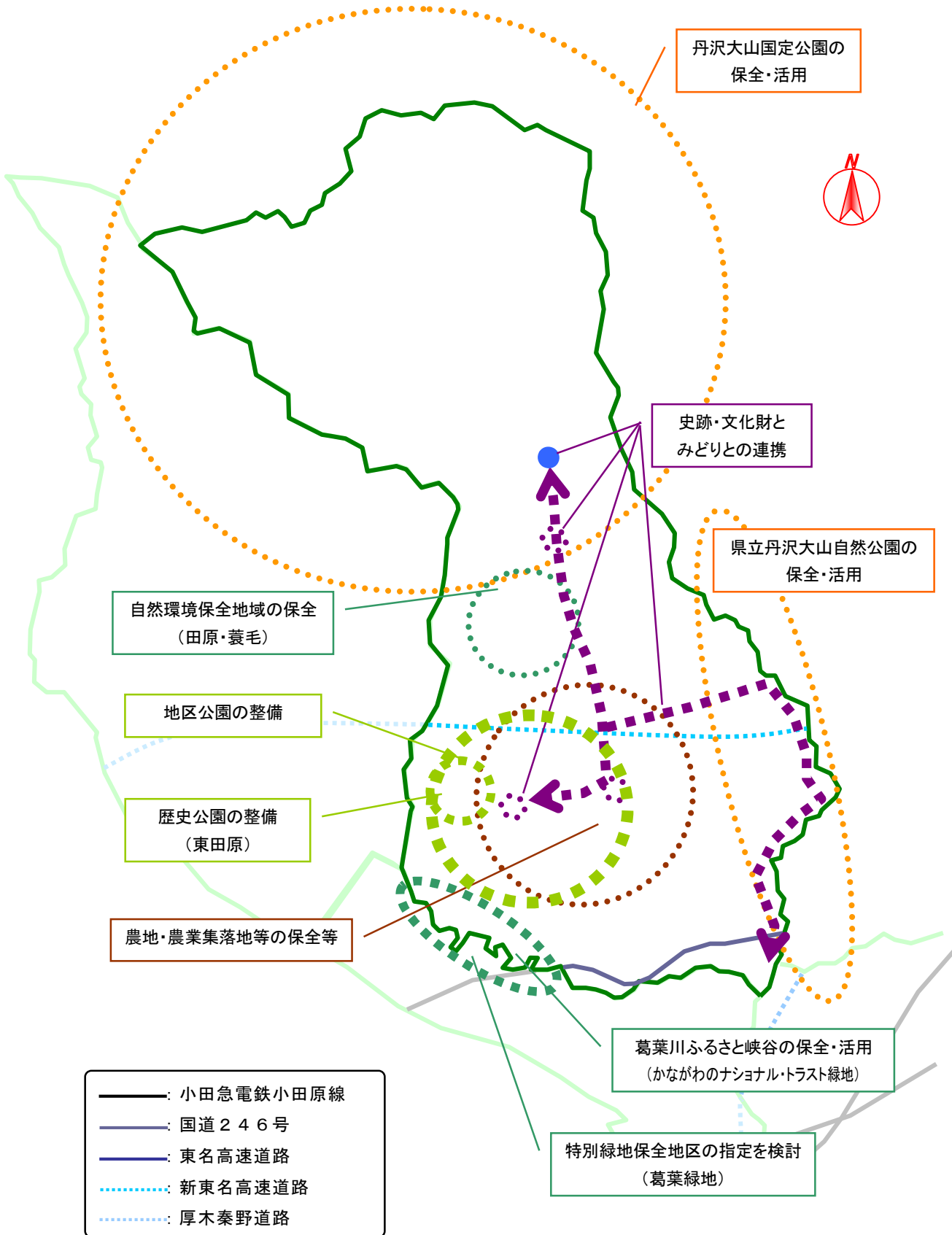
ウ 方針

- 丹沢大山国定公園・県立丹沢大山自然公園の豊かな緑地の保全・活用
- 地区内の史跡・文化財とみどりとの連携を図った活用
 - ・源実朝公御首塚・東田原中丸遺跡・大日堂等の地区内の史跡・文化財を保護し、一体となったみどりを保全・活用することによって、秦野の歴史・文化を感じることでできる空間づくりを進めます。
 - ・地区内の自然環境資源と歴史的・文化的資源を結ぶハイキングルートの整備を図ります。
- 葛葉川ふるさと峡谷の保全・活用
 - ・市街地に近接した身近な自然体験ゾーンとして活用を図ります。
 - ・特別緑地保全地区の指定を検討します。
- 里地里山の保全再生
 - ・ボランティア団体等による里山林の保全活動に対して支援します。
 - ・農林業団体等がヤマビル対策として行う林内整備に対して支援します。
- 農地の保全等
 - ・田原ふるさと公園の活用を推進し、市民の農業に対する理解や都市住民との交流を深める場を創出します。
 - ・集団的な農地等は生産環境の向上及び保全に努め、市街化区域内の農地は生産緑地制度の活用等により農地の保全に努めます。





東地区方針配置図





(4) 北地区

ア 地区の概要とみどりの現状

北地区は土地利用の約75%が樹林地・農地等で、丹沢の森林や農地が広がる良好な自然景観となっており、石仏などの歴史的資源が点在しています。

地区内を流れる葛葉川や新田川は良好な河川環境を有しており、ホタルやカモなどの生息環境となっています。地区西部では、丹沢の自然を活用した広域公園となる県立秦野戸川公園があります。

イ 課題

- 丹沢の自然の適切な保全・活用
- 水無川等の良好な河川環境
- 里地里山や農地の保全・有効活用

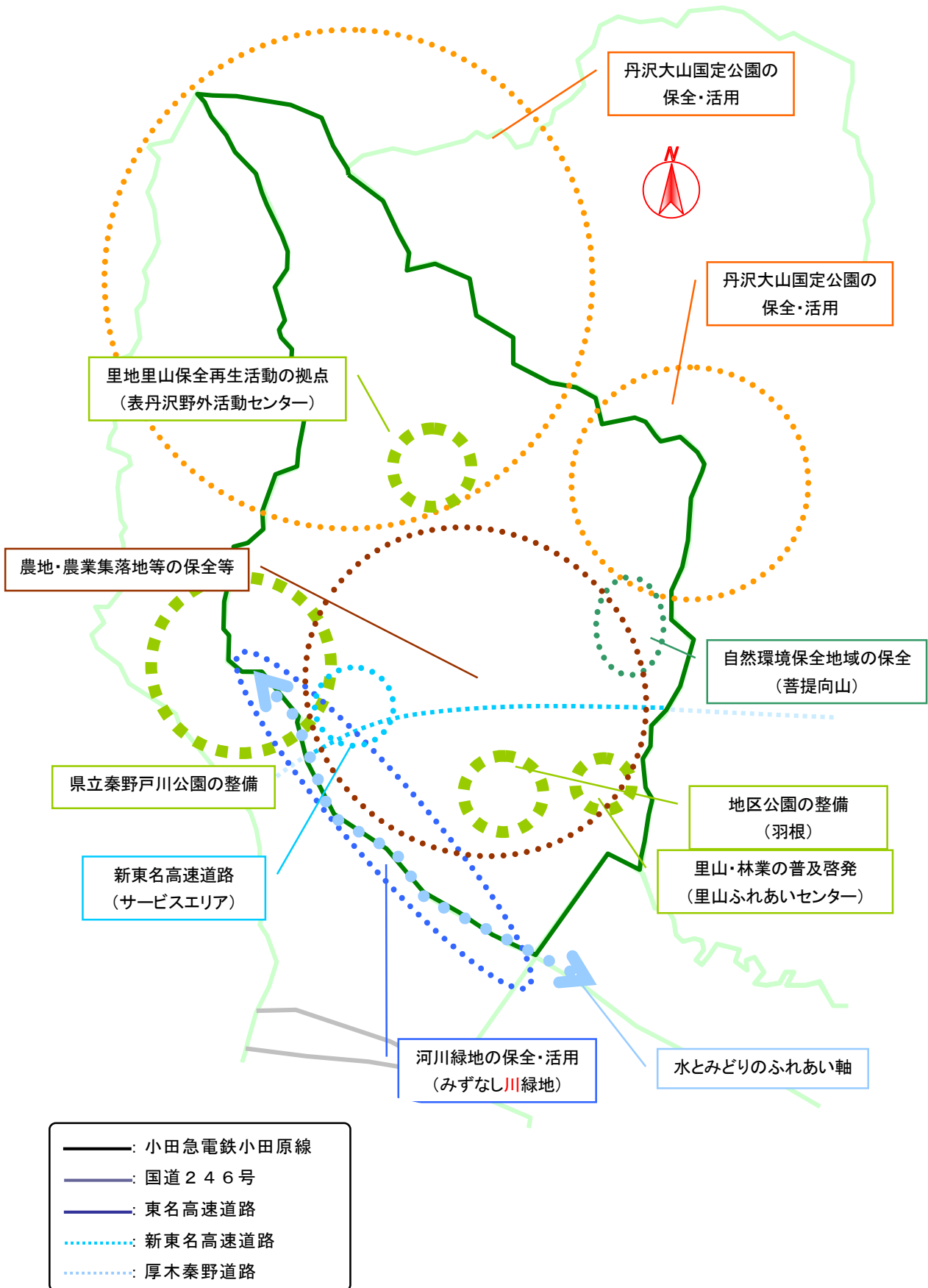
ウ 方針

- 丹沢大山国定公園の豊かな緑地の保全・活用
- 「みどりネットワーク」の保全・活用
 - ・水無川とその川辺に整備されている河川緑地と県立秦野戸川公園との連携を図ることにより活用を図ります。(水とみどりのふれあい軸)
- 県立秦野戸川公園の整備
 - ・丹沢の自然や周囲の田園景観を生かし、地域の文化や自然とふれあうことのできる公園として整備を促進します。
- 里地里山の保全再生及び林業思想の普及
 - ・「里山ふれあいセンター」「表丹沢野外活動センター」における里地里山の保全再生活動及び林業思想の普及を推進します。
 - ・ボランティア団体等による里山林の保全活動に対して支援します。
 - ・農林業団体等がヤマビル対策として行う林内整備に対して支援します。
- 農地の保全等
 - ・家族で気楽に楽しむことのできる観光農業等を推進します。
 - ・集団的な農地等は生産環境の向上及び保全に努め、市街化区域内の農地は生産緑地制度の活用等により農地の保全に努めます。





北地区方針配置図





(5) 大根地区

ア 地区の概要とみどりの現状

大根地区は、秦野盆地の外にあり、弘法山の南面に位置し、市街地を取り囲むように樹林地や農地が広がっています。

地区内には、東海大学や東海大学前駅があり、駅周辺は商業地となっています。

弘法山は、大根地区のシンボリックな緑地となっていますが、森林の荒廃や野生動物による農作物への被害がみられます。

イ 課題

- 弘法山の保全・活用
- 社寺林の保全
- 農地の保全
- 緑豊かな駅前空間の創出

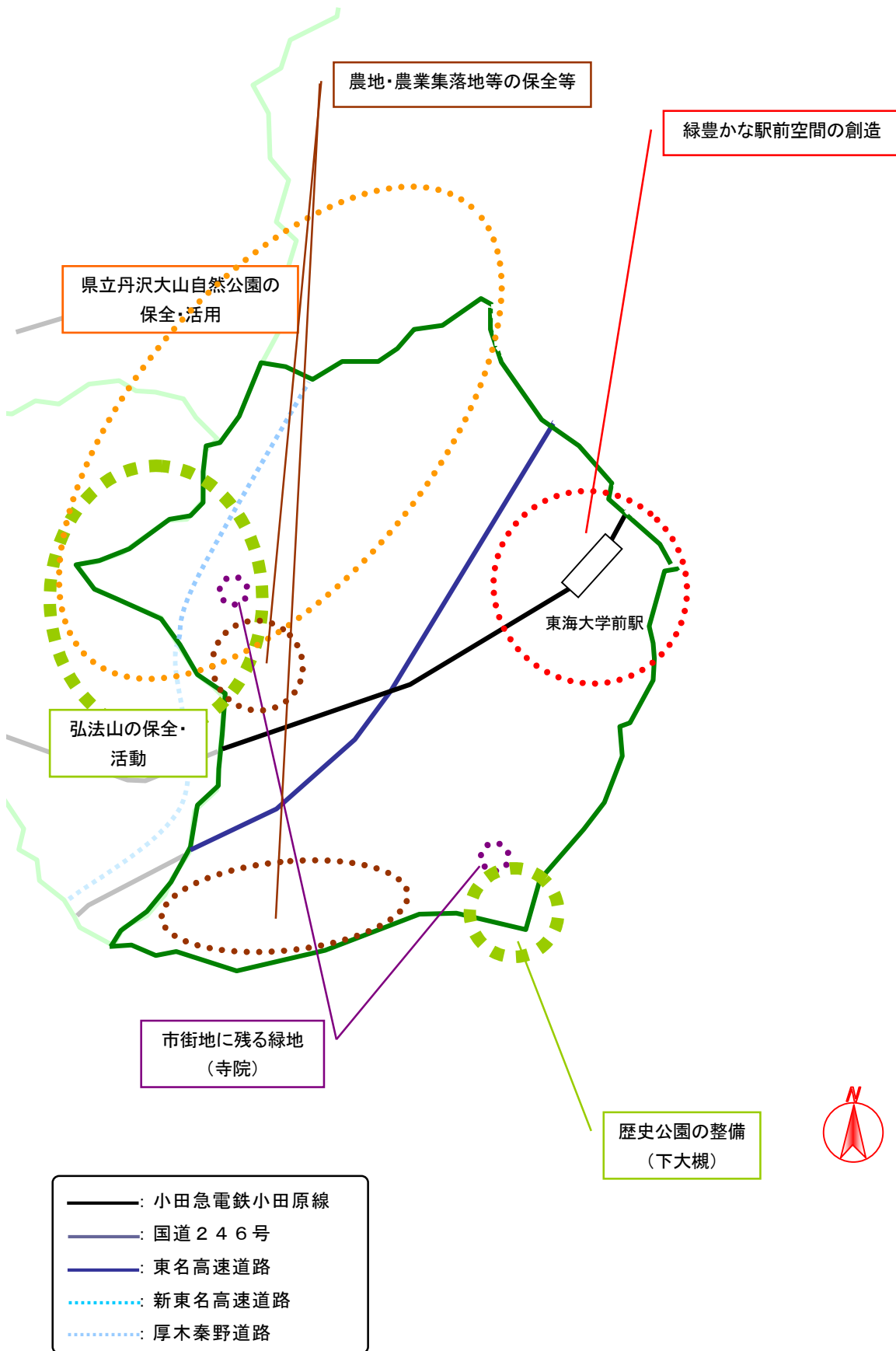
ウ 方針

- 弘法山の保全・活用
 - ・良好な生物生息空間、市街地からの眺望対象として保全を図ります。
 - ・大根川源流域湧水の保全・活用を図ります。
- 県立丹沢大山自然公園の保全・活用
 - ・地区北側に広がる豊かな緑地の保全・活用を図ります。
- 社寺林の保全
 - ・東光寺薬師堂、龍法寺等の良好な社寺林の保全を図ります。
- 農地の保全
 - ・弘法山周辺及び地区南部の集団的な農地等は生産環境の向上及び保全に努め、市街化区域内の農地は生産緑地制度の活用等により農地の保全に努めます。
- 緑豊かな駅前空間の創出
 - ・各駅周辺のもつ地域特性を生かす空間づくりを進めるため、効果的な緑化を推進します。





大根地区方針配置図





(6) 鶴巻地区

ア 地区の概要とみどりの現状

鶴巻地区は本市の最も東側に位置し、秦野盆地の外にあり、伊勢原市や平塚市と隣接しています。

市街地内には県の天然記念物に指定されている鶴巻の大ケヤキや社寺林を中心とした良好な緑が残され、温泉地という地域特性があります。

台風、大雨等による浸水被害が課題となっています。

イ 課題

- 社寺林・大ケヤキの保全
- スポーツ・レクリエーション拠点の形成
- 農地の保全
- 緑豊かな駅前空間の創出

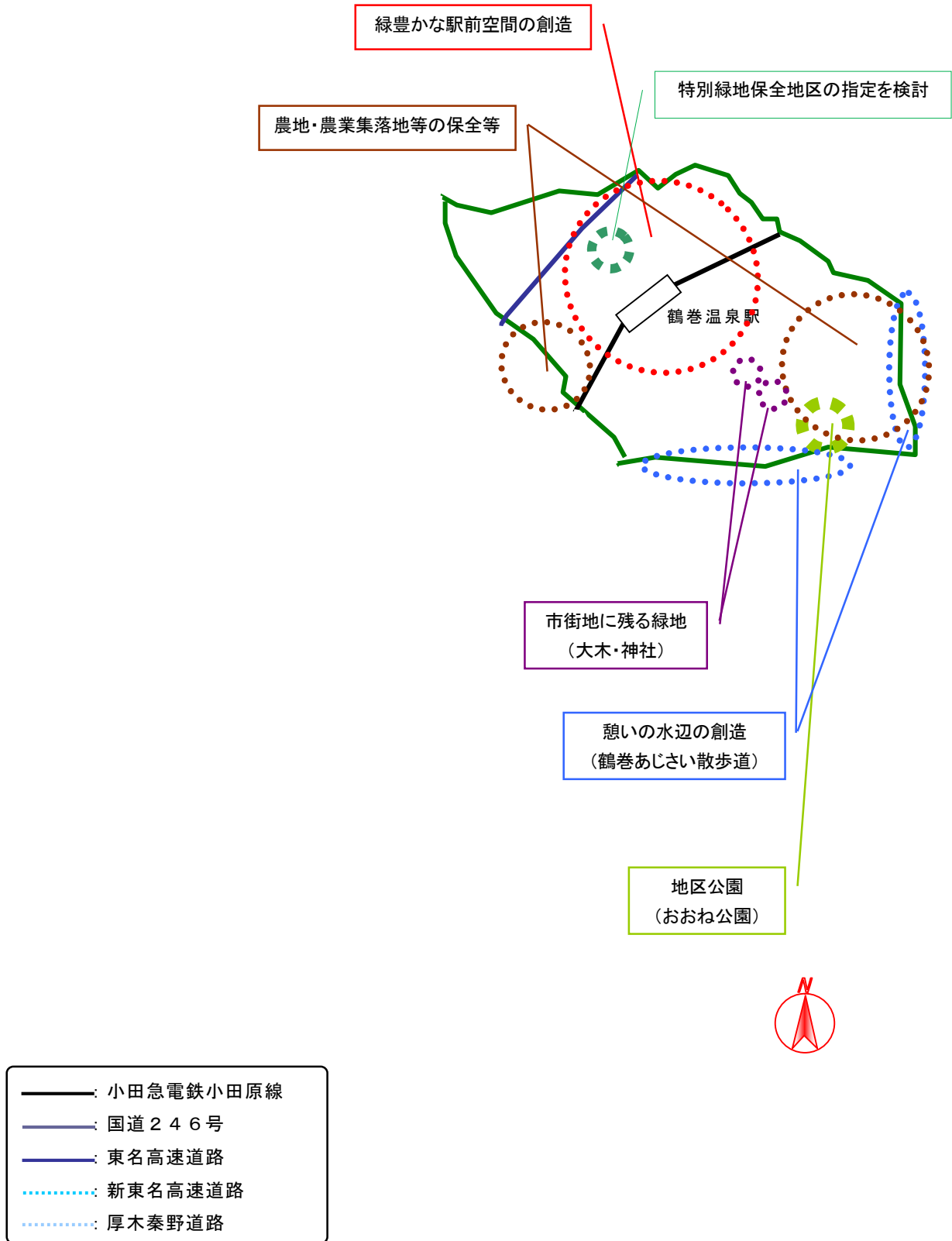
ウ 方針

- 社寺林・大ケヤキの保全
 - ・落幡神社等の良好な社寺林の保全を図ります。
 - ・県天然記念物の鶴巻の大ケヤキを引き続き保全していきます。
- おおね公園を核としたスポーツ・レクリエーション拠点の形成
 - ・おおね公園は、気軽に水とのふれあいやスポーツを楽しむことのできる拠点として、今後も維持していきます。
 - ・おおね公園周辺の河川は、地域との協働で進める「鶴巻あじさい散歩道」や川の清掃・草刈りを通し、散歩などを楽しむことのできる水辺の創造を目指します。
- 農地の保全等
 - ・地区西部及び東部の集団的な農地等は生産環境の向上及び保全に努め、市街化区域内の農地は生産緑地制度の活用等により農地の保全に努めます。
- 緑豊かな駅前空間の創出
 - ・各駅周辺のもつ地域特性を生かす空間づくりを進めるため、効果的な緑化を推進します。
 - ・特別緑地保全地区の指定を検討します。





鶴巻地区方針配置図





(7) 西地区

ア 地区の概要とみどりの現状

地区内には渋沢駅を中心とした市街地が広がり、各種商業・業務施設が立地しています。堀山下地区の南部には規模の大きな工場も立地する工業地が形成されています。渋沢駅周辺では、生活環境の向上と商店街の活性化を図るため、土地区画整理事業が施行されています。

上地区との境界を流れる四十八瀬川は良好な水辺環境を有しており、地区のシンボリック的存在となっています。丹沢の自然を生かした県立秦野戸川公園が整備中です。西地区は本市の中でも農業が盛んな地域であり、「ふれあい農園」などの観光農業も行われています。

イ 課題

- 丹沢の自然の適切な保全・活用
- 四十八瀬川や水無川、室川などの良好な河川環境の保全
- 渋沢丘陵の保全
- 農地の保全・有効活用

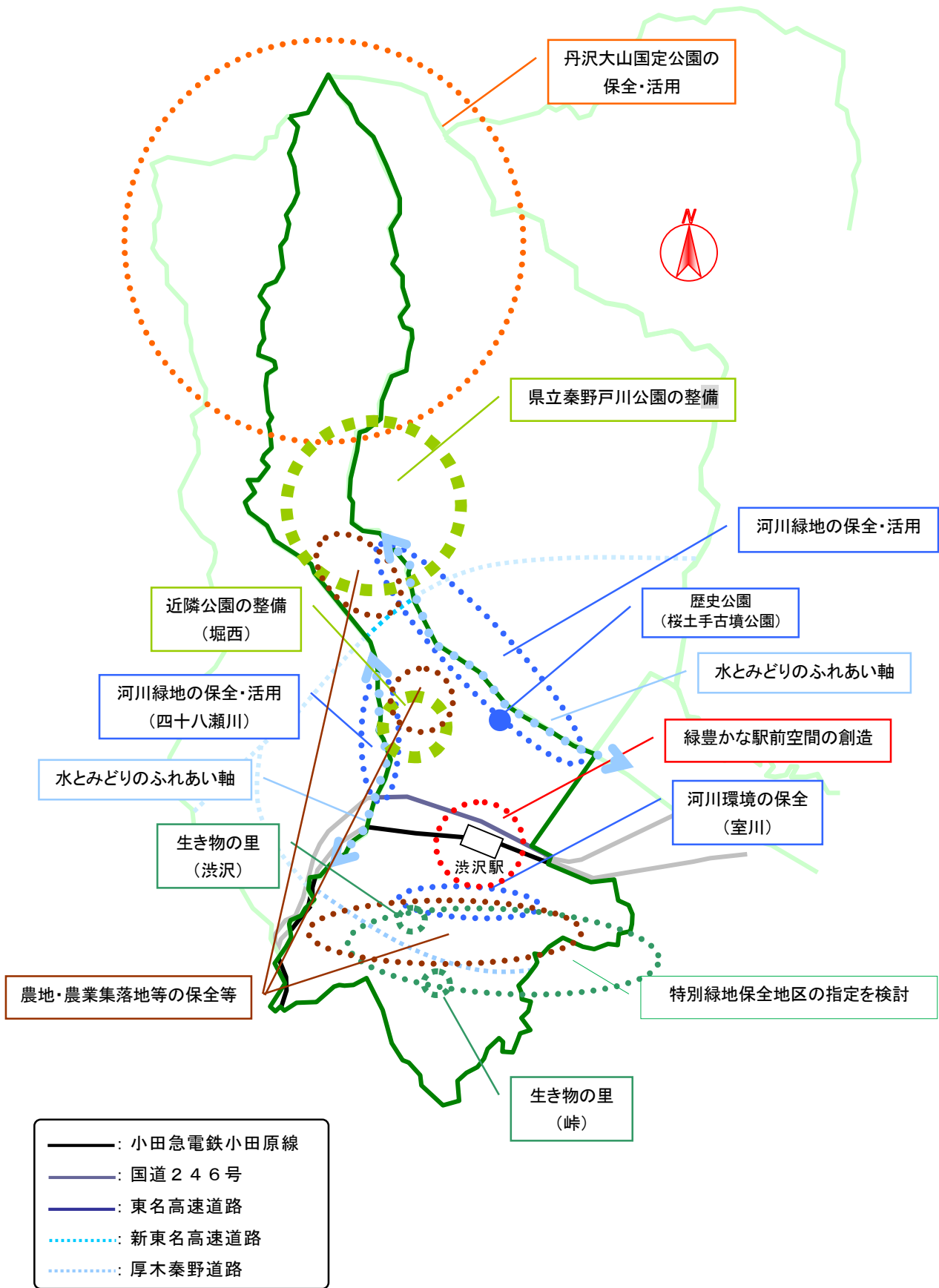
ウ 方針

- 丹沢大山国定公園の豊かな緑地の保全・活用
- 「みどりネットワーク」の保全・活用
 - ・水無川とその川辺に整備されている河川緑地と県立秦野戸川公園との連携を図ることにより活用を図ります。(水とみどりのふれあい軸)
- 県立秦野戸川公園の整備
 - ・丹沢の自然や周囲の田園景観を生かし、地域の文化や自然とふれあうことのできる公園として整備を促進します。
- 水に親しめる河川環境の整備
 - ・四十八瀬川の才戸橋から甘柿橋までの川辺やその周辺を「みどりネットワーク」のひとつとして、自然環境及び景観面から保全するとともに、市民にゆとりとうるおいを与える水辺環境として、整備手法も含めた活用策を検討します。(水とみどりのふれあい軸)
- 渋沢丘陵の保全
 - ・景観上重要となる斜面緑地の保全・活用を図ります。
 - ・ボランティア団体等による里山林の保全活動に対して支援します。
 - ・頭高山周辺の整備事業を進めます。
 - ・生き物の里(渋沢・峠)の指定を継続し、地域との連携による保全活動を推進します。
 - ・特別緑地保全地区の指定を検討します。
- 近隣公園の整備
 - ・身近な公園として近隣公園を整備します。
- 農地の保全等
 - ・集団的な農地等は生産環境の向上及び保全に努め、市街化区域内の農地は生産緑地制度の活用等により農地の保全に努めます。
 - ・家族で気楽に楽しむことのできる観光農業等を推進します。
- 緑豊かな駅前空間の創出
 - ・駅周辺のもつ地域特性を生かす空間づくりを進めるため、効果的な緑化を推進します。





西地区方針配置図





(8) 上地区

ア 地区の概要とみどりの現状

上地区は秦野市の最も西側に位置し、地区面積の約81%が農地・山林で、豊かな自然の中に集落が点在しています。

西地区との境界を流れる四十八瀬川は良好な水辺環境を有しており、地区のシンボリック存在となっています。地区北部は丹沢大山国定公園に指定され、豊かな自然が保護されています。表丹沢県民の森では豊かな丹沢の自然とふれあうことができます。柳川や三廻部などの谷戸田ではホタルの生息環境が残されており、柳川地区の谷戸田は「生き物の里」の第1号に指定されています。耕作放棄された農地が増加しています。

イ 課題

- 丹沢の自然の適切な保全・活用
- 四十八瀬川の良好な河川環境の保全
- 農地の保全・有効活用

ウ 方針

- 丹沢大山国定公園の豊かな緑地の保全・活用
- 水に親しめる河川環境の整備
 - ・四十八瀬川の才戸橋から甘柿橋までの川辺やその周辺を「みどりネットワーク」のひとつとして、自然環境及び景観面から保全するとともに、市民にゆとりとうるおいを与える水辺環境として、整備手法も含めた活用策を検討します。
- 里地里山の保全再生
 - ・ボランティア団体等による里山林の保全活動に対して支援します。
 - ・柳川地区の「生き物の里」を地元住民・ボランティアと協働して、引き続き保全していきます。
- 農地の保全等
 - ・自然環境資源や遊休農地の利活用による地域振興を図るため、農業体験や農村体験等の家族で気軽に楽しむことのできる観光農業を推進します。





上地区方針配置図

